

様式第1号（第5条第1項関係）



鳥羽市議会議長

河村 孝 様

住 所 鳥羽市浦村町168番地
議員名 木下 順一

政 務 活 動 費 収 支 報 告 書

鳥羽市議会政務活動費の交付に関する条例第5条第1項に基づき、次のとおり政務活動費収支報告書を提出します。

1 収 入 政務活動費 156,000 円
2 支 出

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
調査研究費		
研修費	51,280	宿泊研修 (R7, 7/28~29、R8, 1/13~14)
広報費	101,320	「じゅんいち活動かわら版」第34号発行
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費	3,400	現行自治六法
人件費		
事務費		
合 計	156,000	

3 残 額 0 円

様式 1

支 出 伝 票

使 途 項 目	研修費
支 出 金 額	25,640 円
支出年月日	令和 7 年 7 月 28, 29 日 (2 日間)
使 途 内 容	令和 7 年度 第 2 回 市町村長等・議会議員特別セミナー
領収書・その他証拠書類 ☒ 裏面添付 研 修 日 令和 7 年 7 月 28 日, 29 日 研修場所 全国市町村国際文化研修所 研修内容 令和 7 年度 第 2 回 市町村長等・議会議員特別セミナー	
支 出 先	公共交通機関及び全国市町村国際文化研修所
按分立等	
備 考 欄	視察研修報告書添付

研 修 視 察 旅 費 伝 票

報 告 者	木下順一					
視 察 者 氏 名	木下順一					
研 修 先	全国市町村国際文化研修所					
研 修 日	令和 7 年 7 月 28 日～7 月 29 日（2 日間）					
概 算 額	精 算 額		差 引 額			
25,640 円	25,640 円		0 円			
発 着	路 程	路 線	運 賃	特急券	日 当	宿泊料
鳥羽 ～ 京都	170.7km	近鉄	2,740 円	1,640 円	2,000 円 ×2 回	12,000 円 ×1 泊
京都 ～ 唐崎	14km	JR 湖西線	240 円			
唐崎 ～ 京都	14km	JR 湖西線	240 円			
京都 ～ 鳥羽	170.7km	近鉄	2,740 円	1,640 円		
概 算 額			5,960 円	3,280 円	4,000 円	12,000 円
精 算 額			5,960 円	3,280 円	4,000 円	12,000 円
旅 費 合 計	25,640 円					

(鳥羽発着 400 円)

令和 8 年 3 月 30 日

鳥羽市議会議長 河村 孝様

報告者 木下 順一

研 修 報 告 書

1. 【研修件名】

令和 7 年度 第 2 回 市町村長等・議会議員特別セミナー

2. 【研修期間・場所】

期 間 令和 7 年 7 月 28 日（月）～7 月 29 日（火）

場 所 全国市町村国際文化研修所（JIAM）

3. 【研修の目的】

日々めまぐるしく変化する国内外の情勢の中で、様々な行政課題について学び、今後のわがまちの未来や地方行政に求められる役割について多角的に考えることを目的として受講した。

4. 【研修内容】

今回のセミナーでは、次の講義及び対談を受講した。

①「真の意味での持続可能な都市を目指して」

神戸市長 久元 喜造 氏

② 対談「地域の魅力を引き出す文学の力」

文芸評論家 三宅 香帆 氏、小説家 宮島 未奈 氏

③「明日を生きるために一人文知を地域に生かすー近世国学から学ぶ」

國學院大學神道文化学部 教授 松本 久史 氏

④「みんながやりたい場所をつくる廃校利活用施設『いいかね Palette』の運営について」 株式会社 B00K 代表取締役会長 樋口 聖典 氏

久元喜造氏の講義では、持続可能な都市を実現するためには、単に個別事業を積み上げるだけではなく、人口減少や社会構造の変化を踏まえた中長期的な都市経営の視点が重要であることを学んだ。都市の持続可能性は、財政、産業、生活基盤、地域コミュニティなどを総合的に捉えて考える必要があると感じた。

三宅香帆氏と宮島未奈氏の対談では、文学や言葉の力が地域の魅力を見つけ出し、外へ伝えていくうえで大きな役割を果たすことを学んだ。地域にある風景、人の営み、文化、歴史を丁寧に言語化することは、その土地の価値を再認識することにつながり、地域づくりや情報発信にも生かせる視点であると感じた。

松本久史氏の講義では、近世国学を題材に、人文知を地域に生かす視点について学んだ。地域の将来を考える際には、効率性や経済性のみならず、歴史や文化、精神性といった目に見えにくい価値を見つめ直すことが重要であり、そうした蓄積が地域の土台を形づくっていることを改めて認識した。

樋口聖典氏の講義では、廃校利活用施設「いいかね Palette」の運営事例を通じて、遊休施設を単なる空き資産として扱うのではなく、人が集まり、活動が生まれ、地域に新たな価値を生み出す拠点へ転換する発想の重要性を学んだ。行政だけで完結するのではなく、多様な主体の参加と継続的な運営の仕組みづくりが重要であると感じた。

5. 【学んだこと】

今回のセミナーを通じ、地方自治においては、個別の施策の積み重ねだけでなく、地域全体の将来像を見据えた視点が不可欠であることを再認識した。持続可能な都市づくり、地域の魅力の言語化、人文知の活用、遊休施設の利活用という一見異なるテーマも、いずれも地域の価値を見つめ直し、次世代へどうつないでいくかという共通の課題につながっていると感じた。

また、地域課題の解決に当たっては、制度や財政のみならず、地域が持つ歴史、文化、物語、人のつながりといった無形の資源をどう生かすかが重要であると学んだ。議会としても、こうした視点を踏まえ、地域の強みを掘り起こし、将来につながる政策議論へ結び付けることが求められていると感じた。

6. 【今後の活動への反映】

今回のセミナーで得た知見は、今後の議会活動に生かしていきたい。特に、人口減少下における持続可能なまちづくり、地域の魅力の再発見と発信、歴史や文化を踏まえた政策立案、既存施設や地域資源の有効活用といった視点は、本市のまちづくりや地域活性化を考える上で重要である。

今後は、個別事業の是非にとどまらず、その施策が地域の将来像にどうつながるのかという観点を意識しながら、一般質問や委員会質疑、政策提言に反映していきたい。

1. 研修期間 令和7年7月28日(月)～29日(火) 2日間コース

2. 研修内容 第2回市町村長等・議会議員特別セミナー

7/28 (月)	11:00～12:00受付	【講義】 13:15～14:45	【対談】 15:05～17:05	17:15～
	11:00～昼食	真の意味での 持続可能な都市を目指して 神戸市長 久元 喜造	地域の魅力を引き出す文学の力 文芸評論家 三宅 香帆 小説家 宮島 未奈	事務連絡 入寮オリエンテーション 17:50～交流会
	13:00～開講式 日程説明			
【講 堂】				
7/29 (火)	【講義】 9:00～10:30	【講義】 10:50～12:20	12:20～12:30	
	明日を生きるために -人文知を地域に生かす- 近世国学から学ぶ	みんながやりたい場所をつくる 廃校利活用施設『いいかねPalette』 の運営について		閉講・事務連絡
	國學院大學 松本 久史教授	(株) BOOK 代表取締役会長 樋口聖典		

1日目 7月28日(月)

駅 名	近鉄	乗換え	駅 名	JR湖西線	徒歩3分	研修場所
鳥 羽			松 阪	近鉄京都	徒歩10分	全国市町村 国際文化研修所 077-578-5932

2日目 7月29日(火)

全国市町村 国際文化研修所	JR湖西線	乗換え	駅 名	乗換え	駅 名	自 宅
	徒歩3分		唐 崎	近鉄京都	鳥 羽	

様式 1

支 出 伝 票

使 途 項 目	研修費
支 出 金 額	25,640 円
支出年月日	令和 8 年 1 月 13, 14 日 (2 日間)
使 途 内 容	令和 7 年度 市町村議会議員研修〔2 日間コース〕第 2 回「防災と議員の役割」
領収書・その他証拠書類 ☒ 裏面添付 研 修 日 令和 8 年 1 月 13 日, 14 日 研修場所 全国市町村国際文化研修所 研修内容 令和 7 年度 市町村議会議員研修〔2 日間コース〕 第 2 回「防災と議員の役割」	
支 出 先	公共交通機関及び全国市町村国際文化研修所
按分立等	
備 考 欄	視察研修報告書添付

様式 2

研 修 視 察 旅 費 伝 票

報 告 者	木下順一					
視 察 者 氏 名	木下順一					
研 修 先	全国市町村国際文化研修所					
研 修 日	令和 8 年 1 月 13 日～1 月 14 日（2 日間）					
概 算 額	精 算 額			差 引 額		
25,640 円	25,640 円			0 円		
発 着	路 程	路 線	運 賃	特急券	日 当	宿泊料
鳥羽 ～ 京都	170.7km	近鉄	2,740 円	1,640 円	2,000 円 × 2 回	12,000 円 × 1 泊
京都 ～ 唐崎	14km	JR 湖西線	240 円			
唐崎 ～ 京都	14km	JR 湖西線	240 円			
京都 ～ 鳥羽	170.7km	近鉄	2,740 円	1,640 円		
概 算 額			5,960 円	3,280 円	4,000 円	12,000 円
精 算 額			5,960 円	3,280 円	4,000 円	12,000 円
旅 費 合 計	25,640 円					

（鳥羽発着 400 円）

令和8年3月30日

鳥羽市議会議長 河村 孝様

報告者 木下 順一

研 修 報 告 書

1. 【研修件名】

令和7年度 市町村議会議員研修 [2日間コース] 第2回「防災と議員の役割」

2. 【研修期間・場所】

期 間 令和8年1月13日（火）～1月14日（水）

場 所 全国市町村国際文化研修所（JIAM）

3. 【研修の目的】

頻発・激甚化する自然災害に備え、住民の生命及び生活を守るために必要な平時からの防災の心構えや地域連携のあり方を学ぶとともに、災害時のみならず、平時及び復旧・復興期において議会及び議員が果たすべき役割を再確認することを目的として受講した。

4. 【研修内容】

今回の研修では、次の講義、事例紹介及び演習を受講した。

①「いつも混乱する災害対応・被災者支援をなんとかするために」

大阪公立大学大学院文学研究科 准教授 菅野 拓 氏

②「平時の防災と議員の役割」

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科 教授 鍵屋 一 氏

③ 演習「平時の防災と議員の役割」

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科 教授 鍵屋 一 氏

防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井 恵美子 氏

④ 事例紹介「災害時における議会の対応と取組」

秋田県秋田市議会 議員 見上 万里子 氏

コーディネーター 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科
教授 鍵屋 一 氏

⑤ 講義・演習「災害時、復旧・復興期の議員の役割」

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科 教授 鍵屋 一 氏
防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井 恵美子 氏

⑥ 「ふりかえりとまとめ」

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科 教授 鍵屋 一 氏
防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井 恵美子 氏

菅野拓氏の講義では、近年の地震、台風、集中豪雨等による被害を踏まえ、災害対応、とりわけ被災者支援がなぜ混乱しやすいのか、その背景と課題、地方自治体として平時から備えるべき事項、地域連携、議員に求められる役割について学んだ。加えて、被災者支援を避難所運営だけでなく、在宅避難者を含む被災者一人ひとりの生活再建として捉える視点の重要性を認識した。平時の社会保障や福祉の仕組みと災害時支援を切れ目なくつなぐこと、福祉・官民連携・広域避難を含めて制度と運用を考えることは、福祉防災の観点からも重要な示唆であった。

鍵屋一氏の講義では、災害を「予防・抑止」「準備」「応答」「回復・復興」の各段階で捉え、それぞれの局面において議員が果たすべき役割について理解を深めた。特に、災害後に単に元の状態へ戻すのではなく、より良い地域として再建するため、平時から復興の姿を描いておく「事前復興」の視点が重要であることを学んだ。これは演習でも共有され、平時の政策立案や地域づくりの中に復興の視点を組み込む必要性を改めて認識した。

演習では、ワールドカフェ形式による意見交換を通じて、平時及び災害時、復旧・復興期における議員の役割について議論した。具体的には、地域の側溝、法面、避難路等の危険箇所を実際に歩いて確認し、住民と共有すること、自力避難が困難な高齢者や障がい者等に対する個別避難計画の実効性を高めること、行政、地域、専門家をつなぐ結び目としての役割を果たすこと、防災会議への議会の関与や条例面での裏付けを検討することなどの重要性が示された。

また、見上万里子氏の事例紹介では、令和5年7月及び9月の豪雨災害を踏まえた議会対応、消防団員としての避難誘導、被災地域議員としての日常生活再建に向けた行政とのパイプ役としての活動など、実践に基づく報告があった。議員が現場と行政をつなぐ役割の重みを、具体的に学ぶことができた。

5. 【学んだこと】

今回の研修を通じ、災害対応は発災時の応急対応のみにとどまるものではなく、平時からの備えが極めて重要であることを再認識した。特に、平時から「どのような地域として復興させるか」という視点を持つことが、地域の持続性を高める上で重要であり、事前復興の考え方は今後の防災政策の中核となるべきものであると感じた。

また、地域の危険箇所を実際に確認し、住民と情報を共有することの重要性や、自力避難が困難な高齢者や障がい者等に対する個別避難計画の実効性を高める必要性についても理解を深めた。こうした視点は、災害時に支援を必要とする人を平時から支える福祉防災の考え方にも通じるものであり、資料や説明のみでは把握しきれない課題を現場で捉え、その声を議会活動へつなげていくことの重要性を改めて認識した。

6. 【研修成果の活用】

今回の研修で得た知見は、令和8年3月議会における一般質問に活用した。具体的には、木造住宅の耐震化及び事前復興計画の策定を取り上げ、平時から被害を軽減する取組と、発災後を見据えた備えの双方が重要であるとの観点から質問を行った。

木造住宅の耐震化については、発災時における人的被害及び建物被害の軽減に直結する取組として位置付け、その推進に向けた実効性ある方策について質した。

また、事前復興計画の策定については、災害後の混乱の中で復興の方向性を定めるのではなく、平時から地域の将来像を見据えて備えておくことの重要性を踏まえ、本市としての考え方及び取組の方向性についてたどした。

このように、研修で得た「平時の防災」「現場主義」「事前復興」の視点を、実際の議会質問に具体的に反映させることができた。

1. 研修期間：令和8年1月13日（火）～14日（水）

2. 研修内容：令和7年度市町村議会議員研修〔2日間コース〕第2回「防災と議員の役割」

1/13 (火)	11:00-12:00 受付 11:00-昼食 13:00-開講式 開講オリエンテーション 入寮オリエンテーション	【講義】13:00-14:10 いつも混乱する災害対応・被災者 支援を何とかするために 大阪公立大学大学院文学研究科 准教授 菅野 拓	【講義】 14:45-15:35 平時の防災と議員の役割 ※1	【演習】 16:10-17:40 ※2	18:00-交流会
	【事例紹介】9:00-10:10 災害時における議会の 対応と取り組み 秋田県秋田市議会 議員 見上 万里子 コーディネーター：※1	【講義】10:25-11:30】・【演習 12:30-13:50】 災害時、復旧、復興期の議員の役割 跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 まちづくり学科 教授 鍵屋 一 防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井 恵美子	【講義】14:00-14:45 振り返りとまとめ	【大教室1,2】	14:45-15:00 閉講・事務連絡

※1 跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部まちづくり学科 教授 鍵屋 一

※2 防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井 恵美子

1日目 1月13日（火）

駅名	近鉄	近鉄	JR湖西線	駅名	徒歩3分	全国市町村 国際文化研修所
鳥羽	乗換え	松 阪	近鉄	近鉄京都	徒歩10分	唐 崎

2日目 1月14日（水）

全国市町村 国際文化研修所	JR湖西線	駅名	JR京都駅	乗車時間	自家用車	自 宅
		唐 崎	近鉄京都	142分	鳥 羽	

受講証明書

団 体 名 : 三重県 鳥羽市

所属・氏名 : 鳥羽市議会 議員 木下 順一

研 修 名 : 令和7年度市町村議会議員研修〔2日間コース〕
第2回「防災と議員の役割」

期 間 : 令和8年1月13日（火） ～ 1月14日（水）

上記の研修を受講したことを証明します。

令和8年1月14日

全国市町村国際文化研修所
学 長 小 池 信 之



様式 1

支 出 伝 票

使 途 項 目	広報費 /
支 出 金 額	101,320 円 /
支 出 年 月 日	令和 7 年 7 月 25 日
使 途 内 容	「じゅんいち活動かわら版」印刷・新聞折込み代 /
領収書・その他証拠書類 ☒ 裏面添付 第 34 号 (令和 7 年 7 月 22 日発行) 印刷・新聞折込代 106,634 円 うち政務活動費 101,320 円 自己負担 5,314 円	
支 出 先	サ力工商会
按 分 立 等	
備 考 欄	

領収証

令和7年7月25日

木下順一様

金額

¥ 106634



内訳 印刷代 98,334 円折込代 15,334 円

現金	✓
小切手	
振込	

データデザイン作成から印刷まで



印刷工房

サカエ商会

伊勢市岡本一丁目13番41 電話 (0596)28-4337 番
FAX (0596)28-6947

じゅんいち活動かわら版

第34号 活動の歩み備忘録

発行責任者 木下 順一
鳥羽市浦村町168番地
電話 090-3387-5474



教育長、突然の辞職

辞職理由は「一身上の都合」

「プロローグ」

12月の一般質問通告締切日、議会事務局から届いた議案書を見ると「教育長の辞職に伴う退職金」の記載がありました。議会への報告は一切なく、まさに「寝耳に水」の出来事でした。そのため、急速「質問通告書」を提出したという次第です。

「令和6年12月議会」

「一般質問の振り返り」

木下 教育長の辞職はどのように決めたのですか？

小竹教育長 (当時の)市長には、11月5日の時点で、口頭で辞職の意向を伝え、11月19日に正式に辞職願を市長に提出し、その場で同意をいただきました。(以下、教育長)



木下 なぜ、任期途中のこのタイミングで辞職されるのですか？またその理由は何？

教育長 (当時の)市長には、3期目の途中で辞職させていた、だきたい旨を以前からお伝えしていました。いろいろ思い悩むところもありましたが「一身上の都合」で、辞職を決意しました。

教育長から市長へ

小竹市長に直撃！

「令和7年6月議会」

「一般質問ダイジェスト」

「変革のスイッチ」・始動！

木下 市長が掲げる「変革のスイッチ」を入れる」とは具体的に何が変わり、従来の市政とどこが違うのですか？

小竹市長 「鳥羽駅前の再生」と「あらゆる世代が安心して暮らせる居場所づくり」この2点が前市政との大きな違いです。第6次総合計画後期基本計画は尊重しつつ、「走りながら考える」スピーディーな市政運営を進めます。(以下、市長)

「未来への約束」について

木下 政策課題認識と「未来への約束」に込めた思いとは？

市長 17年間手つかずのパープルビルに象徴される市政の停滞感を打破し、スピーディーに前進させたいという強い思いがあります。

木下 早期に取り組む事業はありますか？

市長 子育て支援は具体的な予算化を進め、目に見える形で実行します。また、パープルビルを含めた鳥羽駅前の再生については、企業や省庁等とのパイプを活かし、たとえ小さくても明確な一歩を踏み出します。

鳥羽駅前が生まれ変わる！

木下 鳥羽周辺エリア再生について、市長が描く「みなとまち鳥羽」の目指す方向性は？

市長 鳥羽駅周辺は、市が持つ唯一無二のポテンシャルを秘めた場所です。ここを「寝るまち」の起点として再生していく必要があります。具体的には、パープルビルの再生を軸に、電線の地中化による夜間景観の向上、ヨットハーバー設置、駅前ペDESTリアンデッキ整備などを総合的に推進し、「集客できるまち」を実現します。

※ペDESTリアンデッキとは、高梁型または地下の歩道で、一般に建物と接続して作られ、歩道のほかに広場の機能を併せ持つ場合も多く、道路の付属物である横断歩道橋とは区別される。

木下 大型プロジェクトの進め方、財源確保、任期中の目標は？

市長 まずは市が主導権を握れるよう土地の取得を目指します

その上で、近鉄線を境に、海側は市が主導し、岩崎側は民間の力を借りる構想です。

市長任期中の具体的な成果は、記録に残りますので明言はできませんが、最終目標である2033年の式年遷宮に向け、私の1期目の間にそこへ至る明確なビジョンを描き、1、2年のうちには交渉の進展など、何らかの具体的な進捗をお見せしたいと決意しています。

若者世帯の定住について

木下 学校給食無償化の恒久化と財源は？

市長 学校給食無償化は恒久的に実施します。国が給食費無償化を実施するまでの期間は、「ふるさと創生基金」を活用し継続します。

在宅で子育てしている世帯への支援の考え方は？

木下 国による給食費無償化で、市の財源に余裕が生じた場合、その財源を幼稚園児・保育園児や

在宅で子育て中の家庭支援に充てるお考えはありますか？

市長 保育所等は義務教育ではないため税の公平性の課題はありますが、今後子育て世帯の皆様と対話し、要望を聞きながら、必要に応じてやるべきことはやっていきたいと考えています。現時点では研究段階ですが、皆様のご意見をしっかりと聞かせていただきます。

鳥羽の暮らしを守るについて

木下 「敬老バス・子育てバス」の制度設計は？

市長 「敬老バス」については、無料ではなく、受益者負担の考えに基づき、子ども料金以下の格安な金額でバスを購入していただく事を想定しています。「子育てバス」については、医療費は無料でも離島から本土へ渡る船賃が自己負担となる課題を解決するため、一定の負担をいただきながら様々な支援をまとめた「オールインワン」のパックとして提供することを想定して

います。制度設計に少し時間がかかっていますが、ここはしっかりと取り組んでいきます。

懸案事項への対応について

木下 人口減少や空き家対策、地域公共交通など継続的な課題は、どのような基準で判断するのですか？

市長 空き家の多さなど、市が抱える課題に対し、サービスの「コンパクト化」は必要だと考えています。ただし、それは市全体のコンパクト化ではなく、集落ごとのコンパクト化を目指します。



6月の一般質問は、こちらからご覧いただけます。



【特集】「市民生活を支える補正予算」その他注目の議案

今回の補正予算では、6億8千万円が追加され、市の予算総額は、昨年度比約14億円増の約140億円となりました。

令和7年度一般会計補正予算(第2号)の主な内容

1. 教育環境の向上

学校体育館へのエアコン設置を計画
児童生徒の熱中症対策と避難機能向上のため、市内小学校体育館の空調設備を設置するた

め的设计を進める。
予算額約1,317万円

GIGAスクール構想の2期における、端末一式を取得市内小中学校に、新しい学習用タブレット端末983台を共同調達により整備する。
取得金額約5,569万円

財産の取得について
消防ポンプ自動車、老朽化に伴い、新たに車両を購入。
取得金額2,348万円

「志摩広域行政組合規約の一部を変更する規約について」
民間事業者の参入や福祉・介護サービスの多様化等により、志摩福祉センターの一部の事務を廃止することになりました。

【廃止する事務】

- ・通所介護事業
- ・障害福祉サービス事業
- ・一般相談事業
- ・地域生活支援事業

委員会質疑
委員から「事業が廃止となるが、鳥羽市の登録者へはどのように対応するのか」との問いに、担当課長は「7月と12月で廃止する旨をお伝えし、次の所を紹介していく」と答えている。

市議会開催の報告

2. 子育て世帯を全力応援！ 学校給食の無償化

7月以降も、給食費無償化を継続する。
予算額約4,036万円

新入学児童への応援金
小学校入学時の応援金を3万円から5万円に増額。
予算額160万円

離島からの高校通学支援
離島から本土へ通う高校生の通学費や下宿費を、従来の1/4から1/2へと大幅に拡充。
予算額約286万円

委員長メモ

委員から「離島以外の子供の補助についても検討を進めてほしい」との問いに、担当課は「次年度当初予算に向けて検討を進める」と回答。

注目

「副市長の選任について」
鳥羽市議会本会議で、副市長に三重県伊勢建設事務所技術管

理官の大野源広氏(49)を充てる人事案に全会一致で同意し、7月1日付で就任しました。

「農業委員会委員の任命について」
農業委員会委員には、12名の委員が任命され同意しました。委員非常勤で、任期は3年。



補正予算書の詳細
は、こちらからご覧いただけます。

3. 安全・安心なまちづくり もしもに備える防災資機材を強化！

大規模災害に備え、避難所の生活環境を改善するため、簡易オスメイト(トイレ用)、トイレ用ラックなどの資機材と孤立集落の電源確保用ポータブル電源等を購入する費用を大幅に拡充します。
予算額約6,088万円

予算額約363万円

木造住宅の耐震化を促進
耐震性のない木造住宅の耐震補強工事に対する補助限度額を増額されたほか、新たに耐震シェルターの設置に対する補助金も新設されました。
予算額363万円

4. 観光産業の活性化
「ミジュアル公園」開園に向け
た渋滞・駐車場対策
本年7月に予定されているミジュアル公園の開園に伴い、夏休み期間に予想される市内の駐車場不足や渋滞を緩和するため
の対策費用です。
予算額約756万円

米作り日誌

米騒動がまだ話題になる前の昨年8月、耕作されなくなる田んぼを「何とかしたい」という思いから30代から60代の地元の人8人で、今年から米作りに挑戦しています。
耕作面積は1町6反5畝。
2月上旬に「田起こし」の後水を均し、田植えの準備が整いました。
4月下旬に1畠から苗を軽トラで運び、3台の田植え機で一気に「田植え」を行いました。その後も電気柵と鹿除けの網張り、水の管理や畔の草刈りなどの作業は続きました。
6月下旬には、1Aに依頼して病害虫駆除を農業用ドローンで空中散布も実施しました。



「お手伝い旅」で人手不足解消と関係人口創出へ

お手伝い旅と旅を融合させ、鳥羽で働きながら空き時間を楽しむ方(関係人口)の創出を図り、夏の観光業や冬場の漁業の人手不足の解消に繋がります。
予算額約336万円

5. 利便性向上と作業負担の軽減

「書かない・迷わない・並ばない」窓口へ
住民票や税証明などの手続きをスムーズにするため「書かない窓口」の導入が進められます。マイナンバーカードを活用すること、市民の時間と手間を大きく減らすことを目指します。
予算額約1,038万円



「ミジュアル公園」 佐田浜
7/14から開園中！

読書日誌

7月末に、滋賀県で開催される議会議員特別セミナーで、宮島奈奈さんと三宅香帆さんによる「地域の魅力を引き出す文学の力」と題しての対談があり、聴講する予定なので、まずは二人の作品を。
宮島さんの『成瀬は天下を取りに行く』は、型破りな主人公成瀬の魅力に夢中！本屋大賞受賞作で爽快感が読書体験。
また、三宅さんのデビュー作『人生を狂わす名著50』は、人生観が変わる衝撃的な本に出会えそう！

「R17月16日の既読」
金原ひとみ「ABNORMAL」
月岡ソキ「産む気もないのになりかよー」
山口未桜「禁忌の子」
窪田新之助「対馬の海に沈む桐野夏生「燕は戻ってこない」
「砂に埋もれる犬」
堀川恵子「透折を止めた日」
吳勝浩「爆弾」「法定占拠」
東野圭吾「架空犯」
など、どれも衝撃的ではあるが読みこたえのある作品です。

様式 1

支 出 伝 票

使 途 項 目	資料購入費
支 出 金 額	3,400 円
支出年月日	令和 8 年 1 月 23 日
使 途 内 容	現行自治六法
領収書・その他証拠書類 ☒ 裏面添付 現行自治六法 2026 年 1 月 3, 400 円	
支 出 先	第一法規株式会社
按分立等	
備 考 欄	

払込金受領証

(金融機関・コンビニエンスストア用)

受取人

第一法規株式会社

払込人

木下順一

様

請求金額

円

3,400

お客様番号

093-007736-0004

受領印

収入印紙

7,000円

7,000円

7,000円

(お客様控)

ゆうちょ銀行または、郵便局でのお支払の場合は、左側の2票だけをお出しく下さい。